

レストランで

今日はわたしの誕生日です。誕生日を家族でおいわいすることになり、夕方から近くのレストランに出かけました。その日がちょうど日曜日だったので、わたしたちが着いたときには、レストランはお客さんでいっぱいでした。



たまたま入口近くのテーブルがあいて、そこにすわることができました。いつも来ているレストランでしたが、今日はわたしの誕生日ということもあり、いつもとはちがった気分でした。

「さあ、あなたの好きな物をたのみなさい。」

「やったあ。」

と、おいしそうな物、食べたい物をみんなで注文しました。

注文した物が来るまでの間、家族で色々な話をして待っています。



した。家族のみんなが、心からわたしの誕生日をお祝いしてくれていることがつたわってきて、とてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

しばらくして、わたしは、近くのテーブルにすわっている三人の高校生くらいのお姉さんたちが気になりはじめました。三人ともけいたい電話でしゃべっています。まわりの人の話し声が聞こえにくくなるくらい大きな声なのです。

レストランにいる人たちは、まわりの人たちのことを考えて、めいわくのかからない声でしずかにおしゃべりをしています。そんな中、大きな声で、けいたい電話でしゃべっている高校生くらいのお姉さんたち。

「今、わたし、レストランにいるの。友達といっしょよ。」

「ねえねえ、この前、たのんでおいたことできた。」

「今度またみんなで遊びに行こうね。」

三人とも、それぞれの電話の相手と話しています。

店の人が、

「ほかのお客様のごめいわくになりますから、けいたい電話はごえんりよください。」
と注意しても話しつづけています。

店の人のこまった顔がわたしの心に強くのこりました。

まわりの人たちも、三人をちらちら見ながら、めいわくそうな顔
をしています。

わたしは、思わず、

（ここはレストランです。みんなのことを考えてください！）
と大声でさげびたくなりました。きっと、ほかの人と同じ気持ちだっ
たと思います。

それから、わたしたちのテーブルには、注文した料理がとどき、



家族で楽しい時間をすごすことができました。わたしにとって、すてきな誕生日になりました。

でも、レストランを出るとき、ふたたびわたしは、けいたい電話で大きな声で話していたお姉さんたちのすがたを思い出しました。

わたしは、

（ここはレストランです。みんなのことを考えてください！）

と、もう一度、大きな声でさけびたくまりました。